



不織布(ふしょくふ)マスクの推奨

新型コロナウイルス感染症の流行第5波は感染性がより高いデルタ株が主流となっており、成人は言うまでもなく、10代以下の陽性者が急増し、家庭内での感染が多くなっています。

現在の状況から、大学を含む学校での感染者の増加が強く懸念されます。対面での授業を含む大学生活の確保は極めて重要ですが、感染者の増加が続く首都圏では、社会活動の強度な制限と同様、学内での活動にも安全や感染対策の観点から、これまで以上の活動制限が求められる状況です。

供給不足であったマスクが、現在では安価で容易に手に入るようになりました。中にはデザイン性や通気性や経済性にすぐれ、若者に特に好まれる種類も出てきました。そのような状況の中で、マスクの材質と飛沫捕集力の関係を、理化学研究所をはじめとするチームが調べたところ、不織布で作られているマスクは、適切に使えば、布やウレタン製のものよりも2倍ほど飛沫捕集力が高いことが分かりました。

今まで布やウレタン製のものを使っていた人が不織布マスクに換えれば、変異ウイルスによる感染リスクを従来型の感染リスク以下に下げられることになります。

上記を踏まえ、いわゆる三密(密閉・密集・密接)が発生しやすい状況では不織布マスク着用を推奨します。

<参考資料>

- 室内環境におけるウイルス飛沫感染の予測とその対策
(理化学研究所計算科学研究センター)
<https://www.r-ccs.riken.jp/wp/wp-content/uploads/2021/03/210304tsubokura.pdf>
- マスクの効果と正しい使用方法
(自治医科大学附属さいたま医療センター)
https://www.jichi.ac.jp/center/sinryoka/kansen/taisaku_04.html

次のページへ



不織布マスクの着用にご協力ください。



鼻が出ている



あごマスク



上にずれている

ウレタンマスクや布マスクでは
飛沫を防止しきれません。



みなさんのご協力が必要です。